中国の一人娘世代と母親世代のライフコースの比較研究②
―婚後・子育て期の居住形態と育児のあり方について―

施　利平（明治大学）

ライフコース研究は歴史時間や社会時間がライフコースを形作るあり方に強い関心を持ち、社会政策、社会時間が当該社会の人々のライフコースを形作る様子を把握しようとするものである。中国社会は 1949 年以降今日まで多くの社会変動を経験してきた。1979 年の計画経済政策から市場経済政策への転換、1966-1976 年の文化大革命と 1979-2015 年の一人っ子政策は、人々のライフコースにいかなる影響を与えるかを明らかにするため、本研究では一人娘世代と母親世代のライフコース比較を行う。

これまでの研究は、母親世代か一人娘世代のいずれかを扱い、それぞれの世代のライフコースの特徴を解明してきた。例えば、1950-1960 年生まれの母親世代の女性は文化大革命によって教育が中断され、市場経済の人員削減によって仕事が失うことを体験したうえ、結婚・出産の適齢期には一人っ子政策の導入により、生育行動も大きく制限されていた（Liu2007）。そのため、この世代は教育、職業と出産が政府の政策により大きく振り回された「不幸な世代」と位置付けられる（Liu2007）。

さらに父系親族規範のもと、息子と娘は家庭内で異なった役割が期待され、いずれ他家に婚出する娘は、家庭内の資源やチャンスの配分は男兄弟より、劣位な立場に置かれていた（Bauer et al. 1992）。また結婚後婚家のために男子後継者を出産することが期待されていた一人娘の母親世代は、一人っ子政策のもとで男子後継者を出産できなかった、いわゆる「失敗した嫁」である（李 2010；施 2023）。

他方、1980-1990 年代生まれの一人娘世代は改革開放以降、一人っ子政策のもとで生まれ育った世代である。家庭での唯一な子どもとして、親世代の愛情と教育投資を全て受けることができ、高等教育を受ける機会に恵まれた世代である。彼女らは公的世界では熾烈な学歴競争と職業競争に直面し競争社会で勝ち抜くことを目指しながらも、家庭内では婚家からは嫁役割、生家からは跡取り娘役割がともに期待される（施 2023）。すなわち、一人娘は従来の女性が担ってきた嫁役割または跡取り娘役割の両方が要請され、両家の後継者の出産や将来双方の親の扶養・介護が期待される。さらに 1990 年代以降子どもに寄り添い、科学的な方法で育児を行うとともに、子どもの教育達成を重視する風潮が中国社会では強まっている。その中で女性は子どもの養育・教育における重要な決定やマネジメントが任されており、教育する母としての役割が強化される一方である。一人娘世代は仕事と育児の両立が一段困難な状況に直面している（陳 2022）。

これまでの女性のライフコース研究は世代間の相違点を解明してきたが、世代間の共通点、とりわけ母親世代のライフコースが一人娘世代のライフコースへの影響、つまり世代間の価値観の再生産や世代間の連続性に十分に焦点を当ててこなかった。本報告は一人娘世代と母親世代のライフコースをペアで比較研究し、社会変動が女性のライフコースにもたらす影響、および母親世代のライフコースが一人娘世代のライフコースへの波及プロセスを理解することを目的とする。

具体的に①一人娘世代と母親世代の就労と育児のコーホート比較を行う。女性たちはどのような形態で就労し、どこで、誰からサポートを得ながら、子育てをしてきた/またはしているのか。さらに子どもを教育する役割は主に誰によって担われてきた／担われているのか。②一人娘世代の家族形成は、従来の父系親族規範とは連続性を持つのか。それとも一線を画したものであるのか。父系親族規範のもとで行われていた夫方同居が一人娘世代においても行われているかを検証するため、婚後居住形態と子育て期の居住形態を取り上げて、一人娘世代と母親世代のコーホート比較を行う。

また本報告で用いるデータは、中国浙江省紹興市で 2019-2023 年に行った一人娘調査のデータと 2024 年 8 月に行った一人娘の母親８人の調査データである。

（キーワード：母娘のライフコース比較、一人っ子世代、世代間関係）
謝辞：本研究は JSPS 科研費 JP19K02052 と JP24K05294 の助成を受けたものである。